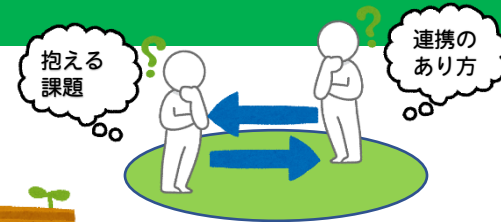




# 地域課題を共有・協議するための場づくり 助けあいプラットフォーム事業

## 助けあいプラットフォーム事業の目的

地域の福祉課題が複雑化・深刻化する中、ひとつの団体だけでは解決が困難な課題の壁があります。この壁を乗り越えるためには、地域住民、行政、社会福祉法人、区民活動団体、専門家などの関係機関（者）がそれぞれの強みを活かし、連携して解決に取り組む必要があります。しかし、「それぞれが抱える課題」「連携のあり方」に相違があるままでは、連携はうまく図れません。このため、大田社協は、地域住民・団体自らが地域の福祉課題を共有し、解決の糸口を探るための場（プラットフォーム）づくりを進めていきます。



## 六郷地域での立ち上げ（平成 29 年度）

助けあいプラットフォーム事業を立ち上げるにあたり、地域の関心と区で策定された「おおた 子どもの生活応援プラン」から今回のテーマを「子どもの課題を共有する場」としました。

平成 29 年 平成 30 年  
開催日：11/21、12/5、2/6、2/20 の全 4 回  
参加者：約 30 名  
自治会・町会、民生委員児童委員（主任児童委員）、青少年対策地区委員、小中学校、児童館、社会福祉法人、NPO法人、地域包括支援センターなど

### 各回のテーマ

11/21	目的の共有化と お互いを知ろう
12/5	各団体が抱える課題を 共有しよう
2/6	課題を掘り下げよう
2/20	六郷プラットフォーム で出来ることを考えよう



## 見えてきた課題の本質

### 子ども

- 子どもの実際（コミュニケーション方法・遊びなど）がわからないことが多い。
- 「わからない」ということも地域の課題である。

### 親・家庭

- 必要なのに相談できない人、孤立している人が相談できる仕組みが必要
- SOSが出せる地域づくりが必要

### 支援者

「個人情報保護」は壁ではなく、「個人情報をどう使い、管理するのか」の情報が共有されていないことが不安につながっている。ただし、本人同意を得ることは容易ではない。

### 人材

- ライフスタイルが変わってきていることをとらえられていない。
- 手伝ってほしいことが明確にできていない。
- 今までのやり方を変えるのは大変である。

## まとめ

### 連携して取り組めること

- 支援者側がしっかりニーズを把握する。
- 支援者と支援されるの関係ではない交流の場、機会をつくる。
- いろんな側面の個人情報保護を勉強する。
- 助けあいのルールづくり
- 出来ないことを明確にした求人募集
- 知らない団体とももっと関わりを持つ

### 足りない機能＜募集掲示板＞

- 子ども食堂や学習教室  
⇒目的をきちんともったもの
- インターネットに関わるしくみ
- 親・子と地域が知り合える環境
- SNSやネットによる情報発信機能

## 今後の展開

### 初回の連続講座

課題共有と連携の必要性に気づききっかけとなる

### 報告会

### 六郷助けあいプラットフォームの本格始動

プロジェクト  
チームの立上がり

新たな担い手・団体

組織化するのではなく、地域課題や時代の変化、情報を常に共有して助け合う場

社協は、この場が前へと進むようファシリテートし、企画立案や事業立上げ等の支援をします。

他地域でも  
展開！